

ZENSATO Monthly News

(全里マンスリーニュース)

2016年9・10月合併号 VOL.82.

2016年10月17日(月)(公財)全国里親会

◆内閣府からの勧告への対応

本紙8月号で、全国里親会は法人運営について内閣総理大臣名で勧告を受けたことをお知らせしましたが、これを受けて8月7日(日)に臨時理事会、19日(金)に臨時理事会と臨時評議員会を開催し、対応について検討してきました。

8月7日の理事会においては、勧告に対する措置状況及び報告書の内容について協議し、外部委員による「業務改革特別委員会」を中心に新体制について検討し、8月19日の評議員会で、定款を改正し理事・評議員の定数を「5人以上12人以内」(現行「8人以上12人以内」)としました。また、役員及び評議員全員が辞任することについて承認し、8月29日(月)に内閣府に対して「勧告に係る措置状況報告」を提出し、10月4日に評議員選定委員会が開催され、新しい評議員が選任されました。

さらに、10月13日には、新評議員会が開催され、理事6名及び監事2名の選任が行われ、新体制が発足しました。

なお、経理書類については、別途、税理士が内閣府と協議の上、改めて提出することになっております。皆様には大変ご心配とご迷惑をおかけし、お詫び申し上げます。

【新体制の構成メンバー】

《理事》

会長 河内美舟(社会福祉法人同朋福祉会理事長・総合園長)

副会長 津崎哲郎(特定非営利活動法人児童虐待防止協会理事長)

副会長 本多洋実(神奈川県里親会会長)

理事 相澤仁(大分大学福祉健康科学部教授)

理事 小林真理子(山梨英和大学人間文化学部教授)

理事 捧智弘(公益財団法人児童育成協会両立支援事業部部長)

監事 高橋永郎(宮城県福祉施設士会会長)

監事 武藤廣茂(学校法人白鳩学園理事長)

《評議員》

評議員 梅原啓次(大阪市里親会会長)

評議員 上鹿渡和宏(長野大学社会福祉学部准教授)

評議員 都留和光(社会福祉法人二葉保育園二葉乳児院院長)

評議員 鶴飼一晴(社会福祉法人唐池学園理事長)

評議員 吉田菜穂子(福岡県里親会副会長)

◆厚生労働省、平成29年度概算要求がまとまる

厚生労働省は平成29年度の概算要求を取りまとめました。雇用均等・児童家庭局家庭福祉課については5028億円。28年度の前年度予算額が4608億円ですから前年度9.1%増と大幅な増額となっています。

改正児童福祉法の施行を踏まえて、家庭養護、家庭的養護を推進するため、社会的養護関連では1369億円(平成28年度予算1270億円)となっています。

内訳としては、児童の措置費等1142億円、虐待防止関連166億円、次世代育成支援対策等60億円。

家庭養護の推進として里親支援事業を創設(従来の里親支援機関事業を拡充し名称変更)し、里親制度の普及促進による新規里親の開拓から里親と児童のマッチング、委託児童の自立支援計画の策定、委託後の支援などを行う、としています。この事業については、里親会活動の基本であり、地域の里親会においてもいかに取り組んで行くか大きな課題です。

関連では、ファミリーホームの設置促進、児童養護施設の小規模化等の推進、社会的養護自立支援事業(仮称)の創設などがあげられています。

◆子ども家庭養育推進官民協議会の動き

家庭養育を推進するため、今年4月に発足した「子ども家庭養育推進官民協議会」は、7月28日(木)研修会を開催しました。また9月に開催された日本財団ソーシャルイノベーションフォーラムにも参加。ソリューション分科会9月29日10時~12時。テーマは「社会で子どもを育てる ~里親・特別養子縁組や子どもの貧困を知っていますか~」、協議会会長の鈴木英敬氏(三重県知事)はじめ数人が登壇しました。会場は180人でほぼ満席でした。

◆里親の日(10月4日)に里親開拓のチラシ配布

10月は里親月間、そして10月4日は里親の日。奈良県のNPO法人日本こども支援協会(理事長・岩朝しのぶ)の呼びかけで、里親の日に全国でチラシを街頭配布しようと呼びかけがありました。チラシは赤いハート形で広げると4つ葉のクローバーになるおしゃれなもの。地域の里親会の有志などが全国94か所で46000枚のチラシを配りました。

里親月間には厚生労働省も里親を開拓するためのさまざまな活動を行っており、次号で概要をお知らせします。

◆施設入所等児童等に係る臨時福祉給付金について

厚生労働省は施設や里親に委託されている子どもに対して臨時福祉給付金を支給する通知を10月20日付で発出しています。子ども一人につき15000円。詳しくは児童相談所の担当職員にお尋ねください。